

市連自治会だより

第 14 号
 発行/令和元年8月1日
 高岡市連合自治会
 (高岡市共創まちづくり課内)
 高岡市広小路7-50
 TEL 20-1326



「令和」新時代の幕開け

日々暑さ厳しき折、市民の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は自治会活動に深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、今年の5月から元号が「令和」に変わり、新たな時代が始まりました。「平成」が始まった頃は、携帯電話やインターネットは一般にはあまり普及していませんでしたが、今や、これらは生活に欠かすことのできないものとなり、大変便利になりました。当時、このような世の中になると想像できた人が、はたしてどれ程いたのでしょうか。今後、技術の進歩は、「令和」の時代において、我々の生活をより豊かにしていくかと思えます。その一方で、近年、地域のつながりが希薄になり、自治会の維持に苦勞されている所もあると聞いております。また、目に見えて子どもが少なくなり、高齢者も増えました。行政でも危



会長あらいあきよし

高岡市連合自治会
 会長 杉江 幸男

機感を持ってこの対策に取り組んでおり、その成果として富山県に移住してくる若い世帯が増えているという、明るい兆しも見えております。しかしながら、人口減少や少子高齢化は、今後、高岡市のみならず、全国的に確実に進行していきます。この根本的な解決が見えないなかで、高岡市では、子どもの減少や地域の担い手の不足などの時代の変化に應じるために、非常に難しい対応が求められております。市連合自治会といたしましては、安全・安心で心豊かな生活の実現のために、地域の活性化が重要であるという認識のもと、まちづくりの担い手として、地域の諸問題を解決すべく心して活動を進めてまいります。市民の皆様方におかれては、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

平成30年7月豪雨・北海道胆振東部地震への義援金のお礼

高岡市連合自治会 杉森 利二
 昨年7月の豪雨では、河川の氾濫や洪水・土砂災害の発生、9月の北海道胆振東部地震では、多くの家屋が倒壊し、尊い人命が奪われるなど、各地域に甚大な被害がありました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害を受けられました皆様には心よりお見舞い申し上げます。災害発生後から、高岡市連合自治会では、被災地の復旧・復興の助けとなるよう、住民の皆様にご協力をお願いいたしましたところ、多額の善意が寄せられました。本紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

義援金募金総額
648万171円
 預託先 高岡市共同募金委員会

特殊詐欺に注意!
 不審なハガキやメールが届いたら詐欺を疑い、一人で悩まず、消費生活センターにご相談ください。
 高岡市消費生活センター
 TEL:20-1522

役員・会員の紹介

会長	杉江 幸男 (東五位)	★	佐賀 儀明 (横田)
副会長 (総務)	大坂 昭輔 (牧野)		下 山 実 (川原)
副会長	浦田 一郎 (佐野)	★	牧 隆 (成美)
副会長	角 玄富 (戸出)	★	橋本 善明 (能町)
理事 (会計)	高木 達郎 (野村)		月安 幸三 (木津)
理事	杉森 利二 (守山)		金元 三知雄 (小勢)
理事	宇波 真一郎 (定塚)		細川 俊治 (石堤)
理事	藤田 晴久 (西条)	★	杉本 孝之 (国吉)
理事	山口 征市 (二上)		坂 廣志 (伏木)
理事	小栗 久雄 (二塚)	★	牧野 光男 (古府)
理事	森田 和夫 (福田)		山本 睦男 (北般若)
理事	増井 俊一 (太田)		上田 義一 (是戸)
理事	矢竹 有至 (福岡)		蔭島 邦男 (中田)
監事	杉本 進立 (野)		澤中 幹夫 (山毛)
監事	澤合 文雄 (醍醐)	★	館田 俊男 (西五位)
監事	出 口 勇 (天滝)	★	田畑 公生 (五位山)
相談役	川田 正信	★	山崎 久栄 (赤丸)
会 員	和田 徹 (平米)		
会 員	米島 義三 (下関)		
会 員	古國府 信二 (博労)		

◎印は新役員
 ★印は新会員

編集後記

若野副会長逝去
 さる3月15日、高岡市連合自治会副会長 若野富男氏が逝去されました。同氏は平成21年度より横田校下連合自治会長に就任して以来10年にわたり、より良い地域社会づくりや地域住民の福祉向上に尽くされました。謹んで哀悼の意を表します。

◆ さる6月12日に、高岡市連合自治会総会が開催されました。会員一同、今年度も引き続き、市勢の発展のために努めて参りたいと考えています。
 ◆ 市内36校下(地区)には様々な伝統文化・行事・見所などがあります。今回は、その中から山町ヴァレー(平米)、獅子舞による地域の活性化(福田)、外国籍住民との地域交流サロン(牧野)について、各会長に執筆していただきました。ぜひ一読ください。結びに、お忙しいところ、貴重な原稿をお寄せいただきました方々に深く感謝申し上げます。
 編集委員 浦田 一郎(記)
 小栗 久雄
 矢竹 有至
 澤合 文雄

令和元年度 定期総会の開催

6月12日、ホテルニューオータニ高岡において本年度定期総会が開催されました。

総会では、平成30年度事業報告・収支決算報告、令和元年度事業計画(案)・収支予算(案)、役員補充が審議され、原案どおり承認されました。
前年度の主な活動内容及び今年度の事業計画は次のとおりです。

平成30年度に実施した主な事業

- ・「市連自治会だより」編集委員会 (5・6・7月)
- ・総会及び市当局、市議会との懇談会 (6月)
- ・県内視察研修 (7月)
- ・「市連自治会だより」の発行 (8月)
- ・市当局との懇談会 (8月)
- ・県連 高岡・射水ブロック会議 (9月)
- ・県外視察研修 (11月)
- ・平成30年7月豪雨及び北海道胆振東部地震の義援金の贈呈 (11月)
- ・平成31年度高岡市に対する要望書提出 (11月)
- ・市当局との新春懇談会 (1月)

令和元年度の主な事業計画

- Ⅰ 高岡市連自治会は、市勢の発展と住民が安心して暮らすことのできる豊かで明るい地域社会づくりに寄



さて、高岡市内には各校下・地区に様々な獅子舞がありますが、当地区でも、現在、7団体の獅子舞が活動しています。荒見崎と蔵野町では、2町が協力して、近隣の介護施設で獅子舞を演じており、施設利用者に変装楽しんでいただいております。また、上北島と石塚では、スーパリーの駐車場で趣向凝らした新演目に挑戦するなどして500人もの見物客を魅了しています。このように獅子舞が盛んな福田地区ですが、近年は、少子高齢化や進学・就職で地元を離れる若者の増加によって担い手が不足しており、地域の貴重な文化の存続や継承について懸念をしております。

そこで、平成30年度に、地域内外の人に興味や関心を持ってもらい、近隣の地区との連携や交流を広げ、獅子舞

与するため、各校下(地区)連自治会相互の連携の基に、行政及び関係団体との相互協力・協力を図り、本会の目的達成のため、次に掲げる事業を行う。

Ⅱ 事業内容

- ① より良い地域社会づくりへの提言
- ② 安全で安心なまちづくりの推進事業
- ③ 福祉活動及び男女平等・共同参画事業
- ④ 環境美化・保健衛生事業
- ⑤ 情報発信事業
- ⑥ 先進地視察等研修事業

栄誉に輝く

■春の叙勲
杉江 幸男 氏(東五位)
■市功労表彰
山口 征市 氏(二上)

町衆文化の発信拠点 「山町ヴァレー」

平米校下自治会連合会長 和田 徹

平米校下は、山町筋とよばれる商家の土蔵造りの家など伝統的な建造物が建ち並ぶ街並みを有する地域です。近世の歴史を紐解くと、高岡市では1900年に大火災が発生し、当時の町の約6割、山町筋の家屋のほとんどが被災しました。その火災において、元々土蔵造りであった数軒の家屋が

焼け残り被災を免れたことで、その後の防災の取組みとして、山町筋は、防火性の高い土蔵造りの家屋により再建していきました。現在も、大火からの再興に建てられた土蔵造りや真壁造りの家屋のほか、前面を西洋風にした家屋、赤レンガ造りの旧銀行社屋などが残されています。

さて、そのような歴史をもつ山町筋ですが、日本遺産や国の重要伝統的建造物群保存地区として選定されたことで、近年は、伝統的建造物の補修や改修、無電柱化など景観保存とともに、これらを観光資源として活用することにも取り組んでいます。ここ数年は、高岡御車山会館や山町茶屋など、観光客に楽しんでいただける施設が増え、休日などには特にお客様が多くなつたと実感しています。

さらに、平成29年には、元文具商であった「旧谷道家」をリノベーションした山町ヴァレーがオープンしました。この山町ヴァレーには、飲食店や工芸品を取り扱うテナントが入居しているほか、自由に入れる共用スペースや中庭も整備され、訪れた人がひと休みできる憩いの場となっております。高岡の観光スポットとして誠に貴重な施設であり、県内外の方だけでなく外国の方々にも魅力的で楽しんでいただくことができます。

高岡市民の方でも、まだ利用されていない方は、ぜひお越しいただければと思います。高岡が誇る町衆によって文化が興り、そして受け継がれてきた歴史とともに新たな高岡の魅力が生まれたこの施設が末永く市民に愛さ

牧野校下 「地域交流サロン」の 取組みについて

牧野校下自治会連合会長 大坂 昭輔

現在、牧野校下ではブラジルや中国、ベトナムなど外国籍の住民が、約400名居住しており、市内では野村地区に次いで2番目に多い地区となっております。しかし、これまで地域住民と外国籍住民とは、「言葉」や「文化」が障害となつて、うまく交流が進んでいませんでした。このようななか、これからの増加が予想される外国籍住民と地域住民の相互理解が深まることで、地域の活性化が図られると考え、牧野地区において、平成30年10月から31年3月までに「地域交流サロン」を6回開催しました。交流サロンでは、外国籍住民が日常生活に必要な日本語を習得できるよう、日本語学習を支援するボランティアの育成も視野に入られて、地域組織による外国籍住民とのコミュニケーションの機会を設けることを重視しました。

第1回交流サロンは、お互いの自己紹介から始まりましたが、一同緊張のせいとかどことなくぎこちなく、言葉の壁を乗り越えて相互理解と交流を図ろうとする交流サロンは、大変困難なことと思われました。
しかしながら、その後、日本に長く滞在しており日本語の堪能な外国籍住民の積極的な参画や、異文化に高い関心を持つ地域住民が中核となつて、

れ活用され、新元号令和のもと、新しい時代が高岡市及び平米校下にとつて素晴らしいものとなることを心から願っております。



伝統を活かす

福田地区自治振興会長 森田 和夫

福田地区は、高岡ICまで車で5分、新高岡駅には10分以内、あいの風鉄道高岡やぶなみ駅に隣接する南北に細長い地区であり、9つの単位自治会に約750世帯が住んでいる小さな地域です。

参加者の募集や楽しい事業を立案していただいたことで、回を重ねるようになって会話が弾んで笑みもこぼれるようになりました。

特に、餅つき体験や蕎麦打ち体験では外国籍の子どもたちだけでなく、その保護者の皆さんにも日本のよき伝統を伝えることができたと思います。また、シリアのスィーツ作りやハラルカレー作りでは、これまで知らなかった文化に実際に接したことで、地域住民の異文化に対する理解が一層深まったと感じております。

今後も、外国人の受け入れの増加がさらに見込まれることから、当地区においても「地域交流サロン」で培われた経験を活かしながら、外国籍住民との交流や相互理解を一層深めていきたいと考えております。

